

杉本 誠司(すぎもと・せいじ) 先生

株式会社ニワンゴ 代表取締役社長

株式会社ドワンゴにてモバイル向けのビジネスツールや
電子書籍サイトなどの新規事業を担当し、メールポータル
「ニワンゴ」の立ち上げに携わる。

株式会社ドワンゴ ニコニコ事業本部アライアンス事業部部長
兼 コーポレート本部広報室長

株式会社ニワンゴ代表取締役社長

株式会社スカイスクレイパー取締役

【参考ホームページ】ニコニコ動画 [http:// www.nicovideo.jp](http://www.nicovideo.jp)



《講義概要》

株式会社ニワンゴの代表取締役社長として、動画共有サイト「ニコニコ動画」の企画・開発・運営を手掛ける杉本誠司氏が、「ニコニコ動画とコンテンツ」をテーマに講義を行った。

講義ではまず、ニコニコ動画について「動画という共通の話題を通じて多くの人と繋がりを持つ機会を体感する場」であると言及し、概要や目的、多様なメディア機能等について説明した。また、ニコニコ動画の基盤でありソーシャルサービスの骨格となる「コンテンツ・エコサイクル」について解説。コンテンツをユーザー自らが生み出すサイクルが重要であることを示し、ユーザー活動の活性化に向けた権利許諾に関する取組みについても紹介した。

続いて、テレビやラジオとの関わりについて具体的に説明し、「メディアがインタラクティブになることで新たな価値を担う」と伝え、メディアやコンテンツの今後の可能性について示した。最後には、ニコニコ動画における音楽文化やニコニコ超会議について解説し、ネットの音楽市場の可能性と既存音楽メーカーの現状や課題を提示した。音楽産業の発展のためにも、ニコニコ動画は今後も新しいことに挑戦し続けて社会に衝撃を与えていく必要があると伝え、ネットを通じた新たなエンタテインメントのあり方を示した。

〈受講生の感想〉

●動画という共通の話題を通じて多くの人と繋がりを持つことができる、コミュニケーションにより様々なものが創造され、消費されるというソーシャルで構成されているニコニコ動画にとっても興味が湧きました。自分の新たな価値を認識し、お互いの存在を許容し、興味を喚起することができるという点も非常に良いと思いました。

立命館大学・法学部・3回生

●ニコニコ超会議のように、最初はソーシャルの中にあつたものをイベントとして開催することで、Face to Face のコミュニケーションへ繋げることができるのではないかと思った。そこにも新たな可能性があるように思えた。ソーシャルな世界観が浸透していく中では、その欠点を挙げるのではなく、利用していくことで新たな発想を生み出していくということがこれからは重要になってくるということが分かった。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●動画を見るというよりもコミュニケーションを目的としている新しい動画サイトの形であり、どこまでもユーザー主体のコンテンツなのだと思います。TV放送の裏番組など新たな取組みが現代のニーズに沿っていると思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●ニコニコ動画はユーザーに対するコンテンツ提供の場であつたり、今日の人々の中にある存在要求を満たした居場所を提供してくれるという事が分かりました。また、今日の音楽産業への影響としてインターネット上で有名になっている人々に人気があるという点に、現在の問題点がみられました。音楽産業側に新たな考え、対策が必要になると感じました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

●ニコニコ動画の“コミュニケーションをとる場所”というコンセプトは、様々なコンテンツや衝撃を社会に与え、またこれ程ユーザーから愛され、ユーザーを支援するものはないのではないかと感じました。これからコンテンツビジネスの先端を歩んでいくのは、ユーザーに一番寄り添う形で存在するコンテンツであると思いました。

立命館大学・映像学部・2回生

●今回の講義では、ネットとテレビの違いについて深く知ることができました。テレビでは、一方的な情報を受信するのみですが、ニコ動では、ネットを通じて様々な意見を共有することができます。これからネットを通じたビジネスが増えていくと思います。ユーザーはマナーを守り、使用していく必要があると思いました。

立命館大学・文学部・4回生

